

がんリスク検査の実施検討について

1 検査方法について

ピロリ菌抗体検査（ラテックス凝集比濁法）

2 目的

すべての胃がんの80%はピロリ菌に起因^{※1}し、ピロリ菌の陽性者^{※1}の胃がん罹患リスクはピロリ菌陰性者に比べ10倍^{※2}と報告されており、ピロリ菌感染の把握、除菌による胃がん罹患リスクの減少、更には胃がん死亡者数の減少が期待できる、

※¹ IARCによる胃がん予防戦略としてのピロリ菌除菌に関する報告書

※² 国立がん研究センター報告より

3 開始時期について

令和3年度～（開始月は未定^{※3}）

※³ 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種開始時期とも重なり、検診機関の混乱が生じないよう市医師会と協議し、開始時期を決定予定。

4 対象

年度年齢、40歳～49歳の者^{※4}（検査は生涯1回のみ）

※⁴ 50歳以上は胃がん内視鏡検査受診が可能であり、ピロリ菌感染の有無を把握

5 ピロリ菌の特性

- ・ピロリ菌の感染は乳幼児期の感染に起因し、成人は感染しない
- ・全国的な感染率は2014年のデータでは、40代で20%、30代で10%程度であり、若いなるほど低くなる。このため40歳代を対象に短期間で集中的に対策を講じる。

6 自己負担金

他のがん検診と同様に委託料の2割程度を想定

※委託料が仮に4,000円であれば、800円程度。

7 その他

・市民ニーズ

※札幌市が平成27年12月に行った市民アンケートによると、約9割の方がヘリコバクター・ピロリ除菌治療を受けたいと考えている。

・死亡率減少効果

※2013年ピロリ感染除菌治療の保険適用後、国全体では死亡者数が減少傾向であるが、本市では横ばいの状況